

令和6年11月13日
環 境 局

指定管理者候補の選定結果について
【環境局選定結果（総括表）】

No.	施設名	指定管理者候補	指定期間	所管課
1	北九州市環境ミュージアム	タカミヤ・里山・エックス 共同事業体	令和7年4月1日 ～ 令和12年3月31日	環境学習課
2	北九州市響灘 ビオトープ	響灘ビオトープ共同事業体		再生可能エネルギー導入推進課
3	北九州市エコ タウンセンター	一般社団法人北九州エコ タウンネットワーク		サーキュラーエコノミー推進課

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、令和6年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

1 指定概要

(1) 施設概要

名 称：北九州市環境ミュージアム

所在地：北九州市八幡東区東田二丁目2番6号

施設内容：①施設概要

全敷地面積：4,100.3㎡ 延床面積：2,245.05㎡

主な施設等：北九州市環境ミュージアム、北九州エコハウス、
体験型環境学習事業『北九州 地球の道』

②事業内容

- ・事業や施設の運営に関する業務
- ・施設の管理に関する業務
- ・その他管理運営に関する業務

(2) 指定期間

令和7年4月1日～令和12年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

名 称：タカミヤ・里山・エックス共同事業体

所在地：北九州市八幡東区東田二丁目5番7号

構成団体：公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団

特定非営利活動法人里山を考える会

株式会社エックス都市研究所

主な業務内容：

【公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団】

市内河川及び海岸線の美化・清掃事業、水生生物の生態研究、保護、育成事業、河川・海岸線愛護団体等への支援事業など

【特定非営利活動法人里山を考える会】

環境教育事業、コミュニティデザイン事業、グローバルコミュニケーション事業、マネジメント事業など

【株式会社エックス都市研究所】

「環境、エネルギー・資源」、「都市空間・地域社会」等に係る計画、総合政策、総合計画策定調査

2 指定の経緯

令和6年8月16日 募集要項配布
令和6年9月24日 募集締め切り
令和6年10月9日 指定管理者検討会の開催
令和6年11月 指定管理者候補を決定

(1) 応募資格

- ・法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ・本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ・申請意向届出書を提出していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が申請意向届出書を提出していること。)
- ・共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加：4団体
応募件数：1団体（タカミヤ・里山・エックス共同事業体）

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討しました。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定しました。

4 検討会構成員

- ・[学識経験者] 松本 亨（北九州市立大学 環境技術研究所教授）
- ・[学識経験者] 江口 恵子（九州女子大学 人間科学部教授）
- ・「財務・経営に知見を有する者」
鶴田 直（北九州環境ビジネス推進会 副代表幹事）
- ・「財務・経営に知見を有する者」
堂野崎 融（九州共立大学 経済学部教授）
- ・「業務に精通する者」
泉 優佳理（科学技術コミュニケーション研究所 代表）

5 選定基準

選定基準（＝審査項目）及びポイント	
1	指定管理者としての適性
	(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針
	① 応募団体が、市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤
	① 長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていただくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
	(3) 実績や経験など
	① 同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。
	② 施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。
	③ 複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2	管理運営計画の適確性
	【有効性】
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み
	① 施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。
	② 施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。
	③ 施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。
	④ 施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
	(2) 利用者の満足度
	① 利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。
	② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。
	③ 利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。
	④ 利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。
	⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
	【効率性】
	(3) 指定管理料及び収入
	① 指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。
	② 収入が最大限確保される提案であるか。
	③ 市に対して収益の一部を納付する提案があるか。
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性
	① 収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。
	② 経費の配分は適切であるか。
	③ 積算根拠は明確であるか。
	④ 再委託が適切な水準で行われているか。
	【適正性】
	(5) 管理運営体制など

① 施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。
② 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。
③ 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。
④ 職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。
⑤ 地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。
③ 日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。
④ 防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。
(7) 社会貢献・地域貢献
<社会貢献の視点>
① 高齢者や障害者等の雇用促進が考えられているか。
② 労働環境の向上への取り組みが考えられているか
③ SDGsの達成や環境への配慮に関する取り組みが考えられているか。
<地域貢献の視点>
④ 地域活動や地域交流などの取り組みが考えられているか。
⑤ 地域団体や市内事業者などと連携した取り組みが考えられているか。
⑥ 市民の雇用拡大に資する配慮が考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準 (=審査項目) 及びポイント	配点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			構成員						
			A	B	C	D	E		
タカミヤ・里山・エックス共同事業体	1 指定管理者としての適性								
	(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針	5	5	4	4	3	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	5	4	4	5	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	5	3	5	5	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み	30	4	4	4	5	4	4	24
	(2) 利用者の満足度	10	4	4	4	4	4	4	8
	【効率性】								
	(3) 指定管理料及び収入	15	4	3	3	3	3	3	9
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	10	4	4	3	4	3	4	8
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制など	10	4	4	4	5	4	4	8
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	10	4	4	3	5	4	4	8
	(7) 社会貢献・地域貢献	10	3	4	4	5	4	4	8
合計	110	89	84	82	98	83	—	85	
地元団体に対する優遇措置 (5点)								90	

(2) 検討会における主な意見

【タカミヤ・里山・エックス共同事業体】

- ・当該施設の指定管理を行っており、熱意があり信頼性がおける団体であると思う。
- ・共同事業体の構成団体がそれぞれの専門の強いところを持ちよった強固な体制であると感じた。
- ・長年の実績をベースに、業務の見直しや新しい提案がなされていることは評価できる。
- ・活動に力を入れる部分と、収益を得る部分のバランス性を持ってほしい。
- ・子供から大人までいろいろな知識レベルの方々が訪れる施設であるため、心のバリアフリーにも通じる点として更なる歩み寄りを期待する。

(3) 検討会における検討結果

- ・団体の審査項目毎の評価レベル及び合計得点により、検討会は、タカミヤ・里山・エックス共同事業体が指定管理者の候補としてふさわしいと考える。
- ・ただし、タカミヤ・里山・エックス共同事業体の提案は、過去の実績をベース

に業務の見直しや新しい提案がなされているが、事業性に課題を残すと考えるので、活動に力を入れる部分と収入のバランスを持つ運営を求めたい。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、タカミヤ・里山・エックス共同事業体を指定管理者候補に選定しました。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・北九州市環境ミュージアムの設置目的及び市の施策について十分理解していると考えられ、同施設の管理に関する意欲が強く感じられる。
- ・共同事業体の各構成団体の人的基盤や財政基盤、経験等を活かすことができ、特に当該施設での指定管理業務の実績、経験がある点で、安定した施設運営が期待できる。
- ・公害克服の歴史、環境保全、資源循環・低炭素社会などこれまでの本市の取組等を熟知した上で、脱炭素社会やSDGsへの取組、近隣施設や海外との連携等に積極的に取り組む提案がなされており、「世界の環境首都」を目指す本市の今後の施策に貢献するものとする。

8 提案額

令和7年度	90,703千円
令和8年度	90,803千円
令和9年度	90,853千円
令和10年度	90,953千円
令和11年度	91,003千円

北九州市環境ミュージアム指定管理者選定に関する提案概要

審査項目	タカミヤ・里山・エックス共同事業体
1 指定管理者としての適性について	<p>(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針 持続可能な社会に向けた環境学習を提供する 「まちの環境力を高める市民の力」プラットフォームを理念とし、</p> <p>① 持続可能な社会の価値観を醸成する ② 環境創造を社会経済の発展につなぐ ③ 持続可能な社会に即した新しい文化・交流を育む</p> <p>の3つの基本方針のもとに、さらなる環境学習拠点としての発展を図っていく。</p> <p>(2) 安定的な人的基盤や財政基盤</p> <p>【公益財団法人 タカミヤ・マリバー環境保護財団】</p> <p>① 水辺の環境保全活動と青少年育成活動を行う専門家集団 ② 収入 23,596 純利益 511 正味財産 239,626 (千円：令和5年度)</p> <p>【特定非営利活動団体 里山を考える会】</p> <p>① 持続可能なまちづくりに必要な人材を育成する専門家集団 ② 収入 158,990 純利益 -27,354※ 正味財産 49,238 (千円：令和5年度) ※純利益が-27,354千円となっているのは、借地権の終了に伴い所有建物の取り崩しを行ったもので、固定資産除却損として36,780千円が計上されたためである。これを除いた純利益は9,425千円である。</p> <p>【株式会社エックス都市研究所】</p> <p>① 持続可能な脱炭素社会をデザインし、プロデュースする専門家集団 ② 収入 3,190,746 純利益 122,369 正味財産 1,351,571 (千円：令和5年度)</p> <p>(3) 実績や経験など</p> <p>タカミヤ・マリバー環境保護財団は平成18年、(特非)里山を考える会は平成21年、(株)エックス都市研究所は平成31年から環境ミュージアムの運営に参画し、館の発展のための知見・ノウハウを蓄積してきた。</p> <p>その成果は、① SDGs 基軸の学習体制整備、② 市内外、海外、幼児から大人までの各階層への的確な対応、③ 楽しみながら学べるイベント実施などに生かされるとともに、④ 出張ミュージアム、⑤ 各種企画展の開催、⑥ 各種団体の活動バックアップなどの活動につながり、国内外を代表する環境学習施設としての地位を固めている。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 管理運営計画の適格性</p>	<p>【有効性】 に関する 取組み</p>	<p>(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み</p> <p>少子化、コロナ禍を経ての社会変容、訴求内容の深化等を踏まえ、利用目標人数は8万人とする。また、出張ミュージアム、オンライン学習プログラムを積極的に展開し多様化する社会様態に応える。従来の取組の充実に加え、「カーボンニュートラル社会」と「デジタル社会」を見据え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新規解説プログラム開発 ② 最先端映像機器による東田エコツアー ③ 企業とカーボンニュートラル企画展 ④ XR・メタバース時代の体験学習 <p>等の新規事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画に掲げる「市民の力でまちの環境力を高める」ための中核施設としての役割を果たす と同時に、環境産業の国内外への発信、環境に関する新しい文化創造、国際化等の取組により、基本構想の稼げるまち、彩りあるまちづくりの役割を果たす。さらには、東田地区のまちづくりに対しても、スローモビリティ導入等さまざまな形で貢献していく。 ・多くの人が気軽に立ち寄れるよう、入館料無料を継続する。 ・① 春夏冬休み及びGW期間中の毎日のイベント開催、休日開館 ② 出張ミュージアムの拡大 ③ミュージアムの魅力を詳細に伝える広報媒体の開発 ④ミュージアムファンクラブの設置・運営 <p>などを通じて利用者の増加、利便性向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・① 3館連携プログラムの実施 ② JICA等国际機関との連携プログラム ③ FAISとの連携プロジェクト ④ 母体団体との連携事業（シェア祭り、水辺の教室、里山トラスト等）等、他施設との連携により、取組みの幅を拡げ、魅力を高める。
		<p>(2) 利用者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の満足度に関しては、一般利用者、団体ともに 100%を目指す。 ・① 相手の属性やニーズに応じたガイドプログラム提供 ② 利用者ニーズの詳細把握 ③ 双方向での学び ④ 事後フォロー等を通じて満足度の向上に努めるとともに、 ⑤ 専門性・国際性の高いガイドプログラム ⑥ 工夫を凝らしたゲーム・工作開発、 ⑦ 高感度カメラを用いたエコツアー <p>等の 実施により、魅力度をさらに高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙や WEB による定型アンケートに加え、インタビューを定期的に行い詳細なニーズ把握に努め、PDCA サイクルにより、迅速な対応につなげていく。 ・環境に精通したスタッフ、英語対応スタッフ、生き物担当スタッフ等一人一人のバックグラウンドを活かした多様なプレゼンテーション体制を整備する。

	<p>【効率性】 に関する 取組み</p>	<p>(3) 指定管理料及び収入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・① 運営母体スタッフの無償協力 ② スタッフの専門性を活かしたマルチタスク制導入 ③ スタッフ自らによる企画・準備・実行の一貫作業 ④ 管理作業の一部と公用車の管理を母体団体が担う <p>など、費用の最大限の削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料イベント、エコツアー、出張ミュージアムの拡大を図るとともに、エコショップの充実に取り組む。また、エコハウスの市民や企業の集う場（ワーキングやイベントスペース等）としての利用、企業等の各種有料研修の実施についても検討する。 ・市民の力でまちの環境力を高める役割を担う施設であることに鑑み、入館料は無料とするとともに、施設の利用料金は市の定めた料金とする。貸室、設備利用で得た収益は、指定管理者業務の充実に充てる。 <p>(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの運営実績で得た知見に基づき、事業費・人件費・施設維持管理費等を最も効率的かつ効果的な視点から見定めた経費を計上するとともに、機械設備、空調保守、電気工作物保安等は、地元の信頼ある専門業者に再委託を依頼する。 ・外構管理、側溝清掃、除草、映像音響設備管理等の日常点検管理は、専門知識を習得するスタッフが管理遂行し、経費の削減に努める。 ・PDCAサイクルの考えに基づき、経費計上、委託の在り方等を、毎年その時点で効率的かつ効果的な成果をあげているかの評価を行い、適宜見直しを図っていく。 <p>提案額</p> <table border="0"> <tr> <td>令和7年度</td> <td>90,703千円</td> </tr> <tr> <td>令和8年度</td> <td>90,803千円</td> </tr> <tr> <td>令和9年度</td> <td>90,853千円</td> </tr> <tr> <td>令和10年度</td> <td>90,953千円</td> </tr> <tr> <td>令和11年度</td> <td>91,003千円</td> </tr> </table>	令和7年度	90,703千円	令和8年度	90,803千円	令和9年度	90,853千円	令和10年度	90,953千円	令和11年度	91,003千円
令和7年度	90,703千円											
令和8年度	90,803千円											
令和9年度	90,853千円											
令和10年度	90,953千円											
令和11年度	91,003千円											

	<p>【適正性】 に関する 取組み</p>	<p>(5) 管理運営体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理については、事務局長、館長、副館長2名、施設長、事務局長代理を配し、それぞれの役割について豊富な経験を有するスタッフを確保する。館長、施設長、事務局長代理は専任とする。運営 スタッフは、事務1名、語学、生き物、IT 等にそれぞれが得意分野を持つガイド5名に加えて、バックアップスタッフ5名が入館やライブラリ受付を行うとともにキャリアを活かして館の保守管理、衛生管理、イベント、清掃等も担う。また、運営母体の事務3名、研究員3名が非常勤で運営に参画する。 ・ミュージアムの運営について客観的な評価を行うために、有識者、各種団体代表等から構成する運営委員会を設置し、年2回の報告、意見聴取、運営への反映を行う。 ・常にスタッフのスキル向上を図るため、定期的に外部講師招聘も含めて研修を行う。 <p>(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境ミュージアム個人情報保護規定の作成、研修実施等で個人情報保護対策の徹底を図る。 ・安全衛生管理委員会を設置し、衛生管理、ハードや心のバリアフリーを体系的に確保する。 ・安全管理マニュアルを整備し、定期的な職員研修などを通じて、安全対策や事故発生時の対応の 実効性を確保する。 ・新型コロナの教訓の下、日常の施設内の消毒等、パンデミック対策について徹底を図る。 ・防犯・防災に関するマニュアル整備と職員研修を行う。 <p>(7) 地域貢献・社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡東田まちづくり連絡協議会、北九州市立大学、八幡高等学校、明治学園小学校、JICA 等国际機関など地域に在る機関と共同プロジェクト等密接な関係を築き、互いがWIN-WINの関係の中での地域の発展に尽力する。また、東田エリアの一員として、他のミュージアムはもとより、商業施設、近隣の商店街等と一体となり、エリア及び周辺地域の発展に寄与する。 ・バックアップスタッフには、原則、65歳を超える高齢者を雇用する。 ・SDGs 達成に取り組む施設の模範として、グリーン購入、SDGs 職員研修、里山保全活動、パートナーシップづくり等に取り組む。 ・こども食堂、フードバンクに対する活動支援を行う。 ・市内企業の SDGs 達成に向けた取組等を、広く国内外に発信する。 ・エコハウスの場の有効活用を通じて、市民と企業の主体的なアクションや協業を支援する。
--	-------------------------------	--